

1. 総括

令和3年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながらの対応となった。年度のなかで様々な感染状況の波があり、対応の調整が必要であった。法人各事業所の特徴もあり、その中で感染防止、集団感染防止に重点を置きながらも、各利用者がストレスをためず生活できるよう、それぞれの事業所で工夫して対応を行った。またご家族に安心していただけるように配慮した。

そのような中、令和4年2月につばきはらファクトリーでの集団感染、3月にはかいぜ寮で集団感染が発生し、関係の皆様には大変なご心配をおかけすることとなった。今後一層の感染防止対策に努めたい。

かすみ会として、今年度はコロナ禍ではあったが創立30周年の記念事業として、まとめの記念誌を発行できたこと、また発行にあたり、県知事、圏域の市長、町長、地元自治会、家族の会、後援会など各方面からのご祝辞を頂戴し、さらに関係の皆様にご一読いただくことで感謝をお伝え出来たことは意義深かった。

これまでのかすみ会の歴史を踏まえ、関係の皆様への感謝を忘れずに、さらに一層の利用者への貢献、地域貢献を積み重ねられるよう努力したい。

2. 事業の総括

(1) 新型コロナウイルス関連

①感染予防対策等

- ・マスク、手洗い、換気、消毒、検温等感染対策の基本の徹底の継続。
- ・各事業所ウイルスを持ち込まない、拡げない対策（アクリル板の設置や活動場所のエリア分け、職員の食事時の黙食の徹底等）とともに、衛生物品の備蓄の確認、調達。
- ・各事業所で発熱者等があった場合は、法人本部と情報共有し、連携して対応を行った。
- ・国県からの情報の共有、圏域内での感染情報の共有。
- ・県や保健所等から情報収集をしながら対応を確認。
- ・利用者、職員、職員家族等の濃厚接触、検査対象発生などの状況に合わせ、隔離対応や職員の勤務の調整を行った。
- ・入所施設の面会については感染状況に合わせて窓越し面会やドライブ面会などの対応を行った。また、家族向けの動画配信を行い、ご利用者の様子をご家族にお知らせした。
- ・新型コロナウイルス感染症の発症や感染の疑いがあり隔離された利用者に対し、職員が対応した場合の特別緊急対応手当の支給を決定した。

(2) 創立30周年事業の実施

新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、式典等は中止、法人創立30周年記念誌を発行し、記念品・記念クリアファイルを各関係者にお配りした。また、かすみ会に貢献頂いた団体に感謝状を贈呈した。利用者の楽しみの機会として、各事業所で創立30周年記念のお祝いのお楽しみ行事を企画・実施した。

(3) 社会福祉法人としての取り組み対応状況

①情報発信

- ・広報委員会を開催し、広報誌かすみ会だより（春夏号及び秋冬号）を発行した。
- ・ホームページ、ブログ等のネットワークを活用し、情報発信を行った。

②地域における公益的取り組みの推進

- ・地域の福祉人材の養成
他法人からのグループホーム見学を受入れた。
- ・障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供
街かどアート展への職員派遣及び作品展示
稲枝地区民生委員児童委員協議会、障がい者部会の研修・見学受入
- ・交流施設こもれび、グラウンドの地域開放

(4) 人材の育成と虐待防止

①理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

法人理念唱和を継続、NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を新人研修で視聴するなど理念のより深い理解と浸透を図った。

②外部研修・見学の実施

虐待防止の見識を深めるための研修参加や専門性、支援技術向上の研修に参加した。

③虐待防止役職員研修の実施

部署ごとにビデオ研修を受け、レポートの提出を行った。

グループホームはクラスター対応の影響で実施出来ていない為、次年度早々に実施予定。

(5) 改修工事

①かいぜ寮作業棟スロープ工事（令和3年7月19日完了）（ダイترون福祉財団助成）

かいぜ寮の作業棟テラスから通院等のために入出りができるよう車両用のスロープを設置した。

②自立実習棟外装改修工事（令和3年9月10日完了）

自立実習棟の外装（屋根、外壁、玄関ポーチ）の改修を行った。

(6) 物故者法要（令和3年11月6日）

こもれびで理事長、事業管理職員、家族の会会長が参列し、光雲寺僧侶の読経により執り行った。一人ひとりの命の尊厳を守る法人行事として継続した。

(7) ハラスメント研修の実施（令和3年8月17日）

令和4年4月1日からの法改正対応のため、西多社労士事務所所長による研修を管理職員等で受講した。

(8) 陶芸活動について

賢愚寮を利用したの焼成については、社会福祉法人としての地域における公益的な取り組みに位置づけられるような地域の社会資源としての利用を検討しているが、具体的に進められなかった。

(9) 人材確保対策

- ・求職者用パンフレット等の作成
- ・就職サイトの活用
- ・ホームページにおいて法人及び事業所情報と求人情報の発信
- ・ハローワーク、福祉人材センター主催職場説明会等への参加

(10) 安全運転に関する取り組み

令和3年7月～10月に実施した令和3年度職域別無事故無違反運動について、かいぜ寮、つばきはらファクトリーが達成事業所となった。

3. 具体的事項

(1) 評議員会の開催と検討事項

令和3年 6月15日（決議の省略） 令和3年6月15日から令和5年6月定時評議員会の終結の時まで理事及び監事の候補者の件他

令和4年 3月29日（決議の省略） 社会福祉法人かすみ会令和4年度事業計画書承認の件他

(2) 理事会開催と検討事項

令和3年 5月31日 社会福祉法人かすみ会令和2年度事業報告書(案) について他

令和3年 6月15日 理事長選定(案) について他

令和3年 7月 8日（決議の省略） 社会福祉法人かすみ会実習棟外装改修工事請負契約の締結承認について

令和3年 9月10日 理事長の職務執行状況報告について他

令和3年11月 1日 (決議の省略) 相談支援事業所かさいせ寮運営規程変更(案)承認について
令和3年12月16日 社会福祉法人かすみ会就業規則変更(案)について他
令和3年12月28日 (決議の省略) 育児・介護休業に関する規則の変更(案)承認について
令和4年 3月22日 (決議の省略) 社会福祉法人かすみ会令和4年度事業計画(案)承認について 他

(3) 監事監査の開催

令和3年 5月21日
社会福祉法人かすみ会令和2年度事業報告書及び決算報告について

(4) 安全衛生委員会の開催と検討事項

職場内巡視の実施(以降毎月実施)

令和3年 4月27日 令和3年度 安全衛生委員会年間計画(案)について他
令和3年 5月25日 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について他
令和3年 6月22日 健康診断・ストレスチェックの結果他
令和3年 7月27日 休憩・休息・睡眠取得の推進(上手な睡眠のとり方)他
令和3年 8月24日 休憩・休息・睡眠取得の推進(休憩室の見直しや改善)他
令和3年 9月28日 職業性の疾病予防(10月労働衛生週間に向け介護職の疾病を学ぶ)
令和3年10月26日 身だしなみ・制服(働きやすい服装について)他
令和3年11月24日 生活習慣の見直し(食生活)
令和3年12月22日 腰痛対策(介護技術向上に向け)
令和4年 1月25日 休憩・休息・睡眠の推進(休憩・休息室の改善まとめ)
令和4年 2月22日 身だしなみ・制服(働きやすい服装について)
令和4年 3月30日 今年度評価反省・次年度テーマ検討

(5) あんしん委員会の開催と検討事項

新型コロナウイルス感染症予防対策のため開催を中止。書面にて報告。

(6) 虐待防止委員会の開催と検討事項

新型コロナウイルス感染症予防対策のため開催を中止。書面にて報告。

(7) 事業管理会議の開催(4回)と検討事項

各事業所の責任者が事業の情報・状況・方針の共有を踏む為、話し合いを行なった。
令和3年 8月26日 滋賀県の緊急事態宣言に係る各事業所の対応等について他
令和3年 9月30日 新型コロナウイルス感染症に係る各事業所の対応等他
令和3年12月 7日 各事業所の近況、進捗状況について他
令和4年 3月 9日 令和4年度組織について他

1. 総括

○新型コロナウイルス感染症に関して

利用者やご家族には面会や帰省、外出等を制限し、地域からの利用者には利用自粛を依頼するなど対応を継続し、恒例行事のかすみ会まつり、家族の会旅行、新年会なども、利用者へのみの参加として、内容を変更して実施した。できる限りウイルスを持ち込まないように対策をとってきていたものの、令和4年3月、男性利用者に新型コロナウイルスの陽性者が発生したのを機に、利用者21名（男性：20名、女性：1名）、職員10名が罹患し、事業継続・運営が危ぶまれる状況にまで至った。この間、滋賀県、保健所だけでなく、圏域内の福祉事業所、他の入所施設から様々な支援や応援をいただき、法人全体で連携をとり、何とか乗り切り、令和4年4月1日をもって収束させることができた。また陽性となった利用者及び職員は、誰も重症化することなく、施設で過ごせ、職場復帰も果たすことができた。

○施設入所利用者に関して

利用定員54名に対し、令和3年度中に男性利用者2名が高齢・疾病等により高齢者等他施設へと移行となり、現在で45名（男性25名、女性20名）となった。また地域から生活介護を利用されている方は、5名であった。（令和4年3月31日現在）

入所利用者の平均年齢は49.6歳と、平均年齢は高く、高齢障害者といわれる状態にある方も依然複数名おられ、医療との連携が必要となり、施設での支援だけでは支えられない方もおられる。

2. 重点課題と評価について

①利用者の生活環境の整備を図る。

具体的方策 高齢・重度、行動障害の利用者が快適に過ごせるよう生活環境の整備を図る。

評価：感染拡大防止等を目的に生活空間を分けられるよう男子棟内に仕切り戸を設置する予定であったが、年度内で完成することができなかった。また男女棟トイレの洋式便座に暖房機能付き便座を設置するように手続きを進めた。

②職員の質の向上を図る。

具体的方策 新人研修・階層別研修等を計画し、専門職としての知識を習得する。

評価：新人職員には、えにし滋賀の福祉人研修に参加に参加し、メンター研修にも参加してもらい、新任職員の育成には継続して力を入れた。しかし、強度行動障害支援者養成研修には参加できなかったが、コロナ禍で職員体制もあり、積極的な研修参加はできなかった。

③居宅での生活困難な障害者等、入所希望者のニーズに応える。

具体的方策 施設入所に向け、行政・相談事業所と連携し、利用者ニーズに応える。

評価：相部屋が使用可能な男性利用者2名、女性利用者1名を募集し、入所調整会議（R4.1.12）を開催した。複数名の利用希望があったが、選考の結果、候補者を選定するに至るものの、施設での新型コロナウイルス感染症対応のため、受け入れを延期した。

3. 事業・活動報告

(1) 日中活動（生活介護・施設入所支援）

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、男性利用者は男子棟ホールとかがいづりを、女性利用者は女子棟ホールと作業棟を使用するなど、男女棟別で活動を行った。
- ・気分転換や健康維持のために可能な範囲で午前の活動前にラジオ体操を行い、終了後に男子棟ではグラウンド歩行、女子棟では棟内歩行（管理棟～女子棟間）を実施した。
- ・入浴については、年度当初、各棟とも月・水・金曜日の午後での実施であったが、10月から職員体制により隔日（男性利用者：火・木・土、女性利用者：月・水・金）の午後からに変更し実施した。また夏季（7月～9月）はシャワー浴として、入浴日以外の日にも実施することができた。

(2) その他

- ・作品展示、出展・・・ ぴかつ to アート展に応募 (入選1名)
- ・余暇支援・・・ ドライブ、買い物外出 (外出自粛一部解除)、DVD・動画鑑賞、お盆・年末年始等の余暇提供

○行事等

月	行 事
4月	花見 (1日) 彦根市長選挙 (期日前投票) (21日, 22日, 23日)
6月	かすみ会まつり代替行事 (3日)
9月	彦根市敬老行事 (30日)
10月	お楽しみビンゴ大会 (家族の会旅行代替行事) (9日) 衆議院議員選挙 (期日前投票) (22, 25, 26, 27, 28, 29日) レクリエーション (28日)
12月	クリスマス会 (23日)
1月	新年会 (14日)

4. 共通の活動

(1) 苦情・事故対策

	件数	内容
事故報告	4件	転倒による怪我3件、誤投薬1件
苦 情	1件	支援方法について

(2) 危機管理 (防災・防犯)

実施日	訓練内容
5月26日	通報・避難・消火
7月 8日	通報・避難・消火(夜間想定)
11月25日	避難訓練 (水害想定)
2月16日	通報・避難・消火(夜間想定)

(3) 研修

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症のため多くの研修が集合研修からZ o o mなどのオンラインやオンデマンド形式の研修となった。

○虐待防止関係研修

月 日	内 容	場 所	人 数
1/21	滋児成協 虐待防止へのアプローチ研修	草津市	2名

○人材育成

月 日	内 容	場 所	人 数
4/2	新入社員研修 (しがぎん経済文化センター開催)	オンライン	2名
5/10, 5/20, 5/27, 3/8	えにし滋賀の福祉研修 (新任期)	草津	2名

○専門的研修

月 日	内 容	場 所	人 数
4/13, 4/20, 10/20, 2/25	メンター研修	草津	1名
7/3	滋賀県災害派遣福祉 (しが DWAT) 養成研修	彦根	1名
11/5	湖東・食と栄養を考える会	オンライン	1名
2/19	びわこ学園公開講座	オンライン	2名
6/21, 22, 24, 25 10/22, 11/12	強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	彦根 守山	研修企画委員 (1名派遣)
2/17, 2/18	強度行動障害支援者養成研修 (実践)	彦根	

(4) ボランティア

月 日	団 体 名	作 業 内 容
4月29日	天理教江東支部	除草作業
5月 7日	稲枝東みずほグラウンドゴルフクラブ	グラウンドの除草及び清掃作業
5月10日	個人	除草作業
11月 1日	彦根5人の会	花壇の除草
11月 4日	彦根5人の会	垣根剪定
12月 9日	彦根5人の会	食堂横葉牡丹植え、キウイ剪定

(5) 実習・研修の受け入れ

予定していた大学等実習（びわこ学院大学、京都文教短期大学、華頂短期大学）の受け入れについては、新型コロナウイルス感染・拡大防止のため受け入れを中止した。

また、10月に予定していた滋賀県総合教育センターの初任者経験者研修（特別支援学校）についても中止した。

5. 医務

- ・インフルエンザ予防接種を11月4日に実施。利用者は全員インフルエンザ予防接種を受けられ今季のインフルエンザ罹患者はおられなかった。
- ・医務職員が出勤後各棟を訪問し、声をかけながら様子を観察した。バイタルサイン、食事、排泄など情報収集し、判断を誤らないよう医務職員双方で情報共有し必要時医療に繋げるようにした。
- ・利用者の健康状態は年間3回発行している「医務だより」で家族、後見人などに伝えた。
- ・職員の健康管理については健診結果を産業医に報告し、必要時面談時間を設けた。
職員のメンタルヘルスに対しても配慮が必要になっている。
- ・利用者検診は予定通り実施した。子宮頸がん検診は女子棟全員が対象者（20歳以上）であるが安全に検診を受けることができる2名のみ受けていただいた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として短期入所棟を受け入れ場所に設定し、備品準備、ゾーニングを行い、適宜点検をした。またワクチン接種は2月と3月に3回目接種を実施した。

<通院の状況> R3年4月1日～R4年3月31日（延人数）

診療科目	内科	外科	脳外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来	合計
	72	21	4	9	30	57	37	33	2	7	2	38	16	1	329

- ・令和3年度もコロナ禍での通院対応となり、マスクを正しく着用できない利用者の通院には苦慮した。

<入院の状況> R3年4月1日～R4年3月31日（延人数）

診療科目	内科	外科	脳外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来	合計
	1	2			1									4

- ・コロナ禍での入院は病院の面会禁止措置により、利用者に会えず、利用者の状態や情報を把握することが困難だった。

6. 給食

- ・利用者の高齢化・重度化に対応するために、栄養ケアマネジメントを強化し、多職種できめ細かく食事摂取

状態を把握し、改善点を整理し利用者の健康上の問題点や、食環境等を医師のアドバイスをいただきながら、栄養ケア会議を定期的開催し改善を行った。

- ・昼食を中心に栄養士が食事の観察を行い、実際に利用者の摂食状況を知り、支援員にも話を聞くことで、厨房職員とも相談の上食材の形状等見直すことができた。
- ・毎週金曜日、利用者に献立表を渡す時にリクエストメニューを聞き、利用者献立表には食育に向けた内容を記載した。

食事形態

主食/副食	主 食		副 食				
	おかゆ	軟飯	ペースト食	刻み食	粗刻み食	普通食	割合
男子 25	0名	3名	0名	2名	7名	16名	36.0%
女子 20	3名	0名	0名	6名	8名	6名	70.0%

※副食の割合とは普通食以外の食事を提供している利用者の割合をいう。

摂取栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	塩分量 (g)
基準量	1750	50.0	45.4	600	9.0
かいぜ寮平均	1667	72.1	46.1	560	7.7

※食品成分表の改定に伴いエネルギー値がこれまでより3~5%減となっている。

1. 総括

湖東圏域では、現在相談支援事業所が14か所となり、いろいろなケースに対応しているものの、相談支援専門員の数がほぼ頭打ち状態となり、新規のケース相談に対応できる体制作りが急務となっている。

64歳を迎えられた利用者が、介護保険サービスに移行する際必要な情報共有等をはかるために「障害福祉サービス利用者の介護保険制度への円滑な移行のためのシステム」会議が彦根市で令和3年度から始まり、相談支援専門員と基幹相談支援事業所（ステップアップ21）、地域包括支援センターとも連携し、利用者が年齢や身体の状態に合ったサービスに移行できるような仕組み作りが今後も続いていくと予想される。

湖東地域障害者自立支援協議会の従来からの部会に加え、人材育成・定着に関わるプロジェクトや高齢化への取り組みなど、地域の障害のある方をめぐる課題は広範囲にわたっており、当事業所も研修会や協議会各部会、「彦根市子ども・若者支援地域協議会実務者会議」「相談機関交流会（彦根市社会福祉協議会主催）」等への参加を通して、社会資源作りに言及する機会が増えた。

新型コロナウイルス感染症への対策も3年目に入り、各サービス事業所の感染防止策の継続とともに、会議やケース検討などもオンラインで行う機会が増えた。相談支援専門員も事業所や利用者宅への訪問を控え、電話やメール、郵送でのモニタリングを行う機会が増えた。ただ、利用者の障害特性上電話等の対応が難しい場合や、事業所、利用者双方からの依頼があり訪問させていただく機会も一定数あり、事業所としての感染防止対策の徹底を今後も図りつつ、ケースの対応を行った。

2. 重点課題に取り組んだ事項

課題1 他機関と連携しつつ、利用者、家族理解に努め、虐待防止に継続的に取り組む

結果 感染症対策のため児童のいる家庭への訪問を自粛するなかで、電話やメール等での状況確認や子育て支援担当課、サービス提供事業所との情報共有を引き続き行った。感染症対策を行ったうえで、ご本人理解のため訪問を了承して下さるご家庭や事業所も一時期より増えているので、気を緩めず感染対策を行い取り組んだ。

課題2 多様な相談に対応できるよう、自己研鑽を継続して行う

結果 新型コロナウイルスへの感染対策のため、オンラインを活用した研修を受講する形が多かった。

参加月	内容
7月	精神保健医療福祉業務従事者研修（基礎コース）
8月	相談機関交流会「多職種連携について」
10月	滋賀県高次脳機能障害支援センター研修会「児童期の支援」 相談機関交流会「電話対応について」
11月	ステップアップ21研修会「アサーティブトレーニング」
1月	ステップアップ21研修会「高齢期に伴う身体状況の変化を学ぼう」
2月	彦愛犬権利擁護サポートセンター研修会「賢く使おう成年後見制度」 相談機関交流会「相談機関紹介」
3月	地域生活定着支援センター近畿ブロック研修「WAIS-IV結果の見方」 ことう地域チームケア研究会「事例検討」 医療型短期入所理解促進講習会

課題3 障害を持つ方々をめぐる地域の課題を知り、解決に向けた取り組みに参画する

結果 前年度に続き「彦根市子ども・若者支援地域協議会実務者会議」、「相談機関交流会」に継続して出席した。また、「高次脳機能障害連絡調整会議」が始動し、病院、障害・介護福祉の機関との関係作りが始まった。これらの協議体の共通項として、多職種連携、チームでの支援を行い、障害当事者とその家族が抱える問題へのアプローチを目指している。民生委員、介護保険事業者、障害福祉サービス事業者、社会福祉協議会、生活困窮支援等それぞれの強みや課題等を共有し、支援の仕組み作りができれば、より当事者や家族のニーズに沿った支援が可能になると思われる。

令和3年度 計画相談支援利用者内訳

(令和4年3月31日現在)

	かいげ寮利用者	グループホーム 利用者	つばきはら含む 地域利用者	計
彦根市	23	1	62 (14)	86 (14)
豊郷町	1		7 (2)	8 (2)
愛荘町	4	1	33 (23)	38 (23)
甲良町	1		4 (1)	5 (1)
多賀町		2	4 (1)	6 (1)
東近江市	5	1	1	7
近江八幡市	3		1	4
日野町	1			1
京都市	1			1
計	39	5	112 (41)	156 (41)

※ () 内は児童(再掲)

※就労継続支援B型利用に係るアセスメント利用者含む

令和3年度 障害者相談支援事業(市町からの委託事業)実績

	彦根市	豊郷町	愛荘町	甲良町	多賀町
障害者	49	11	9	2	2
障害児	10	0	10	1	0
実人数計	59	11	19	3	2
件数	134	21	34	7	4

1. 総括

利用者の状況については、9月にサンコスモ滝井の利用者が退所された為、定員11名中10名（サンコスモ滝井：4名、そよかぜ：6名）の方が利用された。

健康管理について、今年度は医療の充実を向上させることを目標に、訪問歯科や必要に応じて利用者の通院に同行するなど、利用者が健康的な生活が送れるよう支援した。また、食材宅配業者を利用することで健康的な食事量を提供できている為、体重の減少、BMI値の改善がみられた。

運動不足が懸念されている利用者もおられる為、サービスを利用して運動の機会を設け、個人の出来る範囲での運動（ラジオ体操など）を促すなどして支援した。

新型コロナウイルス感染防止対策では、関係機関と濃厚接触者や感染状況の情報を共有しながら、個別に利用者対応を行い、支援体制の構築に努めた。今後も関係機関と連携をとり支援体制の構築を図りたい。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る。

実施内容： 会議で個別支援計画の共有を図り、利用者それぞれに対して統一した対応を行うことができるよう世話人から意見・相談、提案を共有し、検討が出来るように業務日誌等を活用してチームで問題解決にあたった。

(2) 利用者の意向を大切にしながら、家庭的な雰囲気継続し、快適な暮らしができるよう支援する。また利用者の高齢化に伴う転倒やヒートショックなど環境面での課題を整理し、リスク軽減を図る。

実施内容： 冬場に安全に入浴が出来るよう、暖房器具を活用して入浴してもらった。また、居室内のエアコンの設定温度も都度、調整し快適な温度で過ごしてもらった。

季節の移り変わりを楽しめるようホームでの飾りつけを行い、利用者の要望を聞きながら食事内容も検討し楽しんでもらった。また、行事ごとの写真も撮影し、印刷してホームに掲示する等、行事が終わってからでも楽しんでいただいた。

(3) 障害特性に配慮しながら健康で自立した生活がおくれるよう働きかけていく。

実施内容： 訪問歯科治療はサンコスモ滝井利用者3名、そよかぜ利用者3名の計6名を定期的にケアしてもらった。また、皮膚科、耳鼻科への通院の要望が増えており、それに伴って通院回数も増えてきた。高齢化で泌尿器科、循環器科等、今後ますます通院の回数が増えると予想される。

散髪、買物など週末余暇活動の要望もあり、必要に応じて同行できるように努めた。今後、外出や治療を充実させるために外部サービスの利用が出来ないかも含めて検討していく。

3. 入居者の状況

(1) 援助内容

障害のある方が住み慣れた地域において、共同して自立した日常生活または社会生活が営むことができるよう、身体及び精神の状況に応じて、家庭的な生活区間の中で適正な共同生活援助サービスを提供した。

①具体的内容

(生活環境)

日々の生活で不足する衣類を買い換え、季節に応じた清潔な衣服が着られるよう気を配った。住環境も快適に保てるように、利用者の居住空間の使い心地の確認を行った。また、共有スペースに季節を感じられる飾りや、写真などを掲示し、ホームでの生活を楽しんでいただいた。

(保健衛生)

日々、業務日誌に睡眠時間、体重測定、検温などを記録して健康管理・把握に努めた。新型コロナウイルス感染(拡大)防止の為、利用者に発熱があった時は医務とも共有しながら発熱外来などを受診した。濃厚接触の疑いがあった際にはギャラリーにて個別に対応し、他利用者も含め生活上の安全を図った。

(食事)

食材宅配業者の管理栄養士による献立を参考に、利用者の嗜好や健康状態に配慮して提供した。

(余暇)

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
4月5日、8日	お花見	各ホーム	5	6
5月2日	GW 食事余暇	各ホーム	4	3
6月8日、9日	創立記念パーティー	各ホーム	5	6
7月第1週	七夕飾り	各ホーム	5	6
12月22日	クリスマス会	各ホーム	4	6
1月14日	多賀大社初詣	各ホーム	3	3
2月3日	節分 豆まき	各ホーム	4	6

②社会参加について

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
4月24日	彦根市市長選挙	稲枝支所	2	1
10月23日	衆議院選挙	稲枝支所	1	1

上記の選挙活動に加え、それぞれの利用者の要望に応えられるよう、散髪や買物などの社会活動を行えるよう支援した。

③地域生活、職場における問題への対応について

利用者の通所先事業所との連携は、連絡ノート等や電話連絡でのやり取りを通して行った。ホームの様子と事業所での様子を共有したり、通院の状況を伝えたり、作業所から通院の相談をうける場合もあるなど、綿密に連絡を取り合った。

④相談

利用者から職場やホーム内での人間関係、外出予定、家庭における困り事などの相談は多岐にわたる。ネットでの架空請求による相談もあり、消費者センターなど関係機関と連携を取りながら、対応することもあった。必要に応じて家族や後見人等とも相談しながら金銭の管理を行った。

また、上記の相談内容については業務日誌等の記録に残し、支援員、管理者、管理者補佐に情報が共有できるようにした。

⑤個別支援計画

利用者個々の受給者証の更新の時期に合わせて、個別支援計画の見直しを行った。また、サービス等利用計画との整合性や利用者のニーズに基づいた支援内容となるように計画を立てた。

⑥家族・後見人等との連携

利用者ごとに連絡ノートを準備し、帰省時にはホームと家庭の様子を家族と職員とで共有して連携した。(新型コロナウイルス感染防止対策で、帰省時の外出先や体調などの情報も含む) また個別支援計画のモニタリング等を通して、家族の意向や状況など確認する機会を定期的に設けた。

(2) 世話人について

毎月、ホームごとに世話人会議を開催し、利用者に関することや業務に関することなど情報や課題の共有をし、協議する機会を設けた。

(3) 防災・防犯について

防災対応マニュアルを基に、6月避難訓練(水害訓練)、10月に避難訓練(火災訓練)を実施した。

つばきはらファクトリー事業報告

1. 総括

今年度も新型コロナウイルスの感染予防から、つばきはらファクトリーでは、マスクや手洗い、検温を徹底し、換気、食事時には衝立をするなど感染症対策を図った。また、感染対策の観点から行事を変更し、グランドゴルフ大会を行い、利用者にたいへん喜んでいただいた。しかし、2月に新型コロナウイルス感染症のクラスターを起し、一週間休業することになった。尚、重症化する人はおられなかった。

就労収入は、前年度に比べると回復してきたものの、新型コロナウイルスの影響で請負が増えず、経費節減と工賃変動積立金を取り崩すことで、平均工賃月額が25,614円から25,242円と若干の減少にとどめることができた。

就労移行支援事業では、コロナ禍ではあったが、1名の利用者が就労することができた。就労アセスメントでは、昨年の2名から8名に増えた。

就労移行支援の利用者がいない状況が続いており、学校等に情報発信を行った。

就労定着支援では、本人と毎月面談を行い、計画相談と連携しながら、生活が安定するようにサービス調整を行った。雇用期間が満了になった方については、次の就労先につなぐことができた。しかし、1名が退職することになり、本人と話し合いながら対応した。

2. 重点課題

(1) 一人でも多くの方が、一般就労し、定着できるように支援する。

実施内容

就労移行支援については、1名の利用者が就労し、その後も継続できるように面談などを行いサポートした。

6か月後就労定着支援を開始した。

(2) 利用者が安定して確保できるようにする。

実施内容

就労アセスメントや実習の受け入れを積極的に行った。

湖東地域の利用希望者が減る中、八日市養護学校にも広報活動を行い、家族の見学を受け入れてきた。甲良養護学校についても、先生の研修会で講演するなどして支援の状況などの情報発信を行った。

(3) 人材育成を行う。

実施内容

職員会議で、ウェブ研修を活用し、利用者支援の基礎的な研修や虐待防止の研修を行った。

また、JAF ホームページにある危険予知トレーニングを行い、運転時にどのような危険が潜んでいるのか確認を行った。

3. 就労に向けて支援

就労の状況

場 所	月 日	利用者数
株式会社日研環境サービス	5月10日	1名

4. 就労支援事業活動について

委託業務（請負）

請 負 先	内 容
	下請け
弘陽工業株式会社	ボルト組み立て・袋詰め・検品
株式会社くすかみ	タオル箱詰め・検品 検針
ジョイソン・セイフティ・システムズ・ジャパン株式会社	シートベルトの部品組み立て

水谷醤油醸造場	醤油フタ閉め・検品
宮川バネ工業株式会社	バネの組付け
メンテナンス	
聖泉大学	清掃作業
かいぜ寮	清掃作業
その他	
古紙回収	ダンボール回収
農業組合法人 ファームかいぜ	苗箱洗い
有限会社 山本設備工業	除草作業

5. 苦情処理・事故について

事故報告	0件	苦情報告	0件
------	----	------	----

6. 行事

内 容	日 時	利用者参加
お花見 場所 かいぜ寮	4月9日	20名
グランドゴルフ大会 場所 かいぜ寮	11月3日	15名
初詣 場所 海瀬町八坂神社	1月5日	19名

7. 避難訓練

実施日	訓練内容	参加状況	
		利用者	職員
5月17日	消火・通報・避難	19名	7名
6月14日	水害訓練	22名	7名
10月18日	消火・通報・避難	21名	7名